

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100075		
法人名	社会福祉法人 大樹		
事業所名	グループホーム 木かげ I 番館		
所在地	仙台市青葉区西勝山14番8号		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	宮城県仙台市青葉区五橋2丁目12番2号		
訪問調査日	平成22年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 地域・医療との連携を確立しつつ、平均入居率の95%を目指し、かつ、入居者主体の日常生活を基本とし、個別のケアの充実を図りたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街にあり、小規模多機能ホームを併設している。医療と福祉の連携を目標とする法人の3番目のグループホームである。法人理事長が協力医療機関を運営し、入居者への医療体制が充実していることがホームの最大の特長である。入居者の状態変化に応じて24時間の対応が可能であり、重度化や終末期に対する安心感も高い。また、地域との交流にも力を入れており、ホームの会議室を地域の関係団体へ貸し出す等の取り組みも行っている。職員の態度も明るくさわやかで、家庭的な雰囲気の中、入居者が安心して生活できるよう支援が行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念を作り、その内容を各フロアーごとにキャッチフレーズにし、管理者と職員が共有し実践に努めている。	地域との関係性を謳った法人の理念を基本として、各ユニット毎に独自の理念を作っている。ユニット毎の理念は年1回ユニット会議や職員会議の場で決められ、日常業務の中で実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・事業所で行う行事や地域の行事等(夏祭り、町内の清掃活動)で地域住民の方々と交流を図る他、近所の商店に入居者様と買い物に行く等日頃からも交流を図っている。	町内会に加入しており、夏祭りや演芸会、清掃活動等の地域行事に積極的に参加している。また地域住民に夕涼み会等の行事や野菜作りの手伝いをしてもらったり、ホームの会議室を貸し出したり、盛んに交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一回の運営推進会議にて地域の方々との話し合いを通し、認知症の方の理解や支援について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では、町内の方にも参加して頂き、報告、話し合いをしているので、意見をサービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、包括支援センター、家族らが参加し、2ヶ月毎に開催している。ホームの活動や防災訓練、外部評価、建設が予定されている隣接の特養ホーム等について、積極的な意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の広報誌を送付し取り組みを伝える他、必要に応じて市町村担当の方に連絡をとり相談をする等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	月1回発行の広報誌を市・区の各窓口に送付または持参して、ホームを理解してもらうよう働きかけている。また各担当者とは日常的に相談できる協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んではいるが、職員が手薄になる時や無断離苑の危険があり対応しきれない時、やむを得ない状況に一時的に内玄関を施錠することがある。	内部研修にて、全職員が身体拘束の弊害に関する認識を共有している。日中は施錠しないで見守りで対応しており、緊急時には地域住民の協力が得られるような関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修会にて職員全体が、虐待についての事柄に学ぶ機会を設け、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて学ぶ機会を設けており、財産管理サポートセンターを利用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者、計画作成担当者がご家族様と十分話し合い、説明を行い理解・納得をして頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設置してご家族が意見を表せるようにしている。	意見箱を設置している他、入居者には日常的に、家族には来訪時や家族懇談会で意見・要望を表せる機会を設けており、サービス向上に活かしている。また第三者委員や外部の相談窓口についても随時説明しており、玄関に常時掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月、職員会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	各種会議・打合せや日常業務の中で、職員が気軽に意見や提案ができる機会を設けており、備品の購入、個別外出や行事の実施等について、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・上司が職員を個人的感情で判断しているような気がするので、不公平に感じる。 ・職員の勤務形態が手薄になると労働時間が長くなってしまう。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部、外部研修に参加し自己研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・そのような機会は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・日常的な会話や触れ合いの中で、安心して過ごして頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・要望や不安な点等を引き出し、良い点の向上と不安要因の払拭に努め、良い関係を築けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族との話し合い、カンファレンス等で、その時必要なサービスが提供できるように話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事参加や知恵を頂く等、対等な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族との絆や関わりを大切に支援し、アプローチしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの床屋等に行き、関係を継続できるように支援している。	入居者や家族から話を聞いて、これまでの馴染みの関係把握に努めている。行きつけの美容室や病院、友人との交流等、これまでの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士の相性や状態を把握し、良い関係を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のご家族等から連絡を頂き、現在の状況や相談を受けるなど、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話等のコミュニケーションを通じ、各々の思いや考えを把握できるよう努めている。	日常生活の中で思いや意向の把握に努め、職員間で共有している。意思疎通が難しい場合は家族の意向を踏まえた上で、本人本位の支援を行っている。また新しい環境に馴染むために、職員が仲介する等の工夫もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話等のコミュニケーションを通じ、各々の思いや考えを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方やバイタル、精神状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを開催し、現状とケアの見直しを行い、介護計画を作成している。	入居者本人や家族の意向を踏まえ、また主治医等の関係者の意見を取り入れながら、職員全員で話し合い、計画を作成している。毎月の意向確認を踏まえ3ヶ月に一度見直しを行っており、また必要に応じて随時作成し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りで、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来て頂き、演奏会に参加して楽しい時間を過ごして頂くなどしている。協力機関である福祉施設の夏祭りに参加したこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・週一回、かかりつけ医へ受診し、適切な医療を受けることができる。急変時にも、密な連携を図っている。	法人の理事長が運営する医療機関を主治医とすることで、入居者・家族と合意しており、柔軟な対応が可能となっている。また他の病院とも協力体制ができており、受診結果や助言はケース記録等に記録され職員全員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の心身の状態変化や健康不安が生じた際、看護職へ相談し、その都度指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	副施設長、管理者、計画作成担当者が病院と、入居者が入院中の情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際に重度化した場合や終末期の対応についてご家族の希望を伺い、苑で出来る範囲の対応を書面にて説明している。	重度化・終末期共に、入所時にホームの対応方針を説明した上で、書面にて同意を得ている。また状況の変化に応じて、家族・医師と話し合いを行った上で、段階的な合意に努め、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修を開き、急変時、事故時の対応の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災、避難訓練を消防署指導のもと、定期的に行っている。	マニュアルに基づき、夜間想定を含む年2回の防災訓練を実施しており、町内会長や民生委員ら地域住民も参加している。また防災設備の点検も定期的に行っており、非常食・備品も十分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いの関係にならないように心がけ、個々の人格を尊重した声掛けや対応を心掛けている。	入居者を尊重した対応や言葉掛けをしており、さりげない支援を行っている。また居室への出入りも本人の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に関して限られている部分もあるが、出来る限り要望に応えられるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に自らのペースで生活されているが、外出や散歩等の希望希望に関しては職員配置や状況により難しい場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みや気候を配慮し職員がある程度選び、ご本人様に選択して頂いている。髪型等も希望がある方には、ご本人様の好みに合わせた髪型になるよう手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みのメニューを提案や簡単な調理の補助、味見や後片付け等へ参加して頂いている。	職員も一緒に和やかな雰囲気と同じ食事をしており、片付け等も入居者が積極的に行っている。献立は栄養バランスや入居者の好みを取り入れており、看護師である副施設長が日常的にチェックを行い、また医師である理事長も検食をして、適宜助言をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量が少ない方への声掛けや調理の工夫、残食の多い方への見守り、声掛けを行い必要な栄養をとって頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合ったトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を用いることで入居者の排泄パターンを把握し、入居者がトイレで排泄できるよう、さりげない個別誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携し便秘薬も服用されている方もいるが、おやつや食事の工夫、運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番や入浴時間等はご本人の希望や気分に合わせて行っているが、入浴日にはある程度職員が調整させて頂いている。	入浴の時間や回数の希望については、設備上可能な範囲で柔軟に対応することができる。入浴を拒否する方には、担当する職員を変えたり、タイミングをずらしたりする等の工夫をして入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方は、個々にご自分のペースで休息や睡眠をとられているが、介助が必要な方には、職員がご本人の希望を伺うか身体状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を理解し、服薬による変化の観察、確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活には難しいが、個々の生活歴を把握し、好きなことを楽しみごととして行事に込みこむことやレクリエーションに取り入れることは行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望は難しい場合もあるが、ご家族様に協力して頂き、外出や外食等出来るように支援している。	日常的に散歩や買い物等、積極的に出かけられるよう働きかけをしている。歩行が困難な方にも、車いす対応のリフト車を活用して外出の支援をしている。また外泊や冠婚葬祭等の特別な外出にも柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ所持して頂き、買い物や床屋、お祭り等で使用して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着き、心地いい空間になるよう入居者の様子を観察し空間作りに努めている。季節の飾りや花等で明るく楽しい雰囲気を作っている。	照明や音、温度・湿度等、適切に管理されており、清潔で居心地の良い環境が整えられている。壁には書道や絵等の入居者の作品が飾られており、ゆったり過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居室でお一人の時間を過ごされている為共有空間では、一人になれる場所は確保していない。皆様テーブル席にて気の合った方々でお話をや合唱をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を設置したり、ご家族との写真を飾る等、安心して居心地よく過ごして頂いている。	居室には入所前の使い慣れたなじみのタンスやベッド、TV等が持ち込まれており、また家族の写真等が飾られていて、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所のシステムキッチン、入居者の背丈に合うような高さになっており、毎食後の後片づけを手伝って頂いている。普段より入居者が歩くのに危険と思われる物を排除し、毎月行う防災点検にて確認行っている。		